

## アフリカ生物多様性会議の概要

### 1. 日 程

平成 22 年 9 月 16 日（木）～17 日（金）

\* 上記日程の閣僚級会合に先立ち 13 日（月）～15 日（水）に専門家会合が開催され、14 日（火）～15 日（水）の 2 日間は川口専門官が出席し SATOYAMA イニシアティブを紹介した。

### 2. 場 所

ガボン共和国・リーブルビル国際会議場

### 3. 参加者

- ・ アフリカ諸国約 50 カ国の環境大臣ほか
  - ・ 国際機関（CBD 事務局、UNEP、AU、UNU-IAS（名執上級客員研究員）ほか）
  - ・ フランス環境長官（注：ガボンの旧宗主国代表）
  - ・ 外務省荒木 COP10 担当大使、在ガボン加藤大使
  - ・ JICA 本部（岡崎上級審議役、森林環境部三次次長、アフリカ部副審議役）、アフリカ内各地域事務所（JOCV 隊員を含む）（総勢 35 名）
- 環境省からは、南川地球環境審議官が出席（生物多様性地球戦略企画室/鳥居室長、川口専門官が随行）。

### 4. 概 要

（1）2 日間の議論を経て、次の 4 文書を採択した。

- ① アフリカ地域の生物多様性と貧困軽減に関するリーブルビル宣言
- ② COP10 に向けたアフリカの共通ポジション
- ③ グリーンエコノミーに関するロードマップ（\* 英語版未発表）
- ④ IPBES に関するロードマップ（\* 英語版未発表）

なお、閣僚級会議において荒木大使がオープニングステートメントを行うとともに、南川地球審から COP10 開催に向けた決意（2 日目）と SATOYAMA イニシアティブ（1 日目）に関する 2 つのステートメントを行った。

また、16 日、JICA サイドイベントにおいて UNU-IAS 名執研究員が SATOYAMA イニシアティブのプレゼンテーションを行った。

（2）採択文書の概要

- ① アフリカ地域の生物多様性と貧困軽減に関するリーブルビル宣言

- ▶ IPBES を支持しそのアフリカ委員会を設立する
- ▶ 各国がグリーン・エコノミーへ向けた取組を行う
- ▶ 地域（アフリカ）の生物多様性センターの設立を進める
- ▶ ABS の国際枠組の確立を図る
- ▶ アリ・ボンゴ ガボン大統領が 65 回国連総会並びに CBD-COP10 において当該宣言を紹介する

## ② COP10 に向けたアフリカの共通ポジッション

- ▶ 発展途上国、特にアフリカ諸国に利益をもたらす ABS 議定書の確立
- ▶ アフリカでの貧困削減に寄与する新戦略計画の策定を支持する
- ▶ 資金メカニズムや技術的な支援を呼び掛ける
- ▶ 「国連生物多様性の 10 年」を支持する

## 5. バイ会談

(1) 以下の国々と荒木大使、南川地球審とのバイ会談を実施し、特に ABS に関して意見交換を行った。

ガボン（首相、環境大臣）、ギニアビサオ（環境大臣）、ブルキナファソ（環境大臣）、エジプト（環境大臣顧問）、マリ（環境大臣）、南アフリカ（環境副大臣）、コンゴ共和国（環境大臣）、フランス（環境長官）

(2) 各国とも総じて COP10 の成功に向けて好意的であったほか、ABS について、いくつかの国（エジプト、マリ）は個人的見解としながらも遡及適用に固執しない姿勢を示した。ただ、COP10 に向けたアフリカ諸国の共通ポジッションペーパーには依然として遡及適用が盛り込まれた。

フランスは IPBES の設立に向けて積極的な姿勢を示すとともに、ポスト 2010 年目標の EU 案が野心的なことに関する当方の懸念に理解を示した。ABS については、ほぼ日本と同様のスタンスであったが、特に病原菌等の緊急事態への対応について懸念を示した。